



# 1 アオツツラフジ (ツツラフジ科)

 ツル性の落葉広葉樹  
(高さ5mまで上る)

 花は7~8月に、総状に咲く

 藍黒色の実は冬に変色する

人家周辺から山奥まで、林縁部でごく普通に見られる、落葉性のツル植物です。ツツラフジ科で、ツルが緑色をしていることから、アオツツラフジと名付けられたのでしょう。

近縁種のおオツツラフジやコウモリカズラなどとともに、根や茎に、トリロビンやシノメニンなどのアルカロイドを含みます。「木防已(もくぼうい)」と呼ばれ、リウマチ・神経痛などの鎮痛剤や利尿剤として、古くから使われてきました。江戸時代の小野蘭山著の「本草綱目啓蒙」にも登場します。

☠ 毒植物なので要注意!

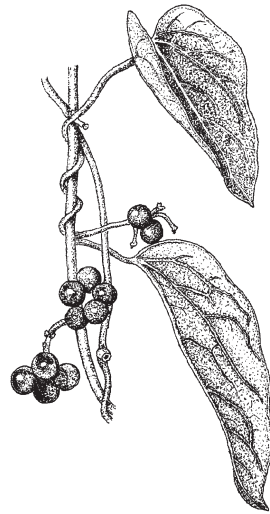
<利用方法>

- ① 根や茎を煎じて、利尿剤・鎮痛剤として使う。

本種で一番面白いのは、藍黒色の実の中に1個入っている種子の形です。何と云うことか、種子は、古生代の海に生息していた三葉虫(さんようちゅう)と、そっくりなのです(下の図)。本当に可愛い姿をしています。でも見た後には、必ず手を拭いて下さいね。何しろ、毒植物ですから。




<アオツツラフジの実>



<総状に垂れ下がるアオツツラフジの実>

# 2 アオハダ (モチノキ科)

 亜高木性の落葉広葉樹  
(直径30cm、高さ15mに達する)

 花は6月に、束生して咲く

 実は10月に赤く熟す

コナラやアベマキの多い低地の二次林から、面の木峠のブナ林まで、アオハダは幅広く分布していますが、個体数は、それ程多くありません。雌雄異株で、初夏に咲く花は直径4mmしかないうえ、花弁は緑白色で、しかも小高い所で咲くため、本当に目立ちません。モチノキ科樹木の全体的な特徴です。秋になると雌株に実る赤い実も、目の前で見るとは稀で、あまり印象に残りません。

でも、アオハダには、大きな特徴が3つあります。

- ① 灰色の樹皮を爪でむくと、きれいな緑色の内皮が見える。この特徴から、「青肌」と名付けられた。

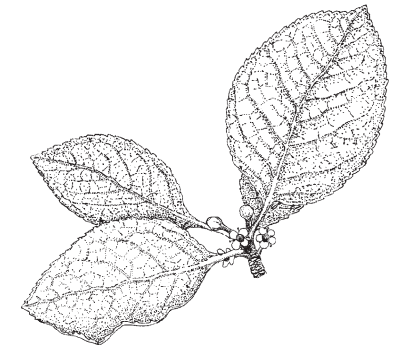
<利用方法>

- ① 庭木として植栽することがある。

② 葉を手にとって観察すると、表面は黄緑色で艶消しなのに対して、裏面は同じ色ながら光沢がある。普通の植物と反対である。




③ 枝先の葉のつき方を見ると、先端は葉が交互につき互生なのに、元の方は短枝の先に輪生してつくという2種類のつき方がある。

こうした特徴はアオハダだけではありませんが、3つとも備えていて、しかも見やすいのは、本種ぐらいです。アオハダが属するモチノキ科の樹木は、豊田市内だけで11種類もあります。ひとつの科に属する樹木を集中的に調べるのは、とても楽しいものです。



<アオハダの雌花>

### 3 アカメガシワ (トウダイグサ科)

-  亜高木性の落葉広葉樹  
(直径 50 cm、高さ 10mに達する)
-  花は7月に、円錐状に密生する
-  実は 11 月に熟し、鳥が散布する

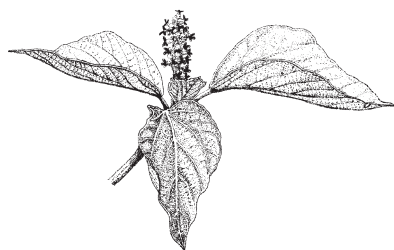
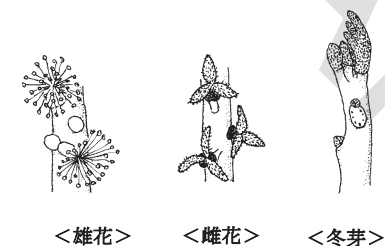
宮城県以南の暖地の平地や低山地に普通に生える、雌雄異株の落葉広葉樹です。

名前が「赤芽柏」で、春になると紅色の若葉がよく目立ち、成長した大型の葉を、カシワと同じように食物を乗せるのに使ったことから、つけられたものです。本種の若葉の紅色は、若緑色の葉が茂る森では、本当によく目立ちます。

雌雄異株で、真夏に穂状に咲く雌花は赤色、雄花は淡黄色が目立ちます。葉は先が尖った幅広い卵形で、葉脈が集まる根元には、面白い特徴があります。よく見ると、中央が膜状で少し輝き、周囲が赤い円形の突起が一对あることに気が

つきます。これが腺体です。時々、小型のヒメアリの仲間が数匹集まって、蜜を吸っているのに出会うことがあります。きっと、蜜を与えることにより、葉や花を食べる昆虫を追い払ってもらうのが目的だと思われます。

葉や若枝には星状毛が密生し、葉裏には小さな腺点も多数あり、ルーペで観察すると、とっても面白いです。






<アカメガシワの雌株>

<利用方法>

- ① 樹皮を胃潰瘍や十二指腸潰瘍の治療薬として利用する。

### 4 アサノハカエデ (ムクロジ科)

-  亜高木性の落葉広葉樹  
(直径 15 cm、高さ7mになる)
-  花は5月に、総状に下向きに咲く
-  実は 11 月に熟し、風で散布する

皆さん、アサ(麻)の葉を御存知ですか？麻の服は着たことがあっても、本物の麻の葉を見ることは、まずありません。もっとも、違法栽培で逮捕されたという記事の写真に登場する大麻草は、同じ仲間です。

その麻と葉が似ているとして名付けられたカエデが、アサノハカエデです。本種はブナやミズナラが生える温帯性の落葉広葉樹で、主に湿った沢沿いに生えることが多いようです。個体数も多くありませんので、見る機会が少ないカエデのひとつです。最大の特徴は、葉の表面で、葉脈が細脈まで凹むことです。表面に光沢がないことも、目につきます。カエデの仲間は、花の咲かせ方が2種

類あります。ひとつは、雄花だけ咲かせる雄株と、雌花だけ咲かせる雌株が、別々の株に分かれるグループで、ハナノキ・ウリカエデ・アサノハカエデ・チドリノキなどがあります。これを、雌雄異株と呼びます。もうひとつは、雄花と雌花が同じ花序に咲くグループで、イロハカエデ・ヒナウチワカエデ・カラコギカエデ・エンコウカエデなどがあります。もっとも、これらの雌雄同株のカエデたちも、同じ花序ながら雄花と雌花は別々に咲きますので、雌雄同株の雌雄異花といえます。一方、バラ科やクスノキ科など、多くのグループは、雄しべと雌しべが、ひとつの花にあり、雌雄同株の雌雄同花といえます。



<下向きに咲くアサノハカエデの雄花>

<利用方法>

特になし。